

2018年7月10日

大暑を控え、これから最も暑い時期となります。皆様におかれましては、ますますご壮健のこととお喜び申し上げます。また、この度の大雨により被災された皆様ならびにそのご家族の皆様へ、心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と、一日も早く日常を取り戻されることを心よりお祈り申し上げます。

さて、本日定期考査が終了いたしました。今回の考査は期間中に大雨による休校をはさみ、日程が大幅に変更となる事態となりました。なかには、不安な状況で考査対策どころではなかった生徒もいるかもしれませんが、学習については一つの区切りを迎えました。(明日の模試については、後半で述べます。)

高校生としてのスタートを切ったこの3か月間、日々の学習についてどう取り組めたでしょうか。高校での学習内容は中学の8倍から10倍といわれています。これまでと同じ学習スタイルでは充分に対応できなくなる可能性があります。実際に生徒からの声として、

- ・授業のスピードが速くなった
- ・内容が格段に難しくなった

というものが数多くあがっています。それぞれが日々の授業に取り組むなかで、中学との違いを実感しているようです。

そのようななか、全体の雰囲気なかで気になることができています。それは、入学当初の前向きな気持ちを継続して持ち続けることができる生徒が多くいる一方で、

- ・将来の目標がまだ漠然としている。
- ・今やるべきことがわからない

などが原因となり、なかなか前向きに取り組めない生徒が一部見受けられることです。

3年間を見据えたときに、実はこの時期が大きな成績の転換点になります。この1年間で意識して身につけるべきは、

**「高校生としての学習習慣の確立」**です。

入学式でも**“定着”**がキーワードですとお伝えさせていただきました。この内容を裏付けるこんなデータがあります。

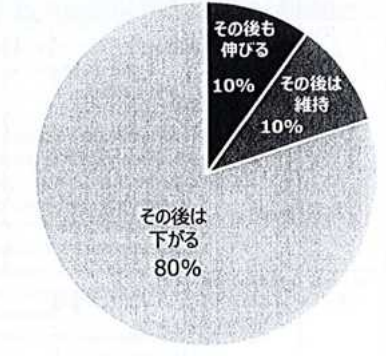
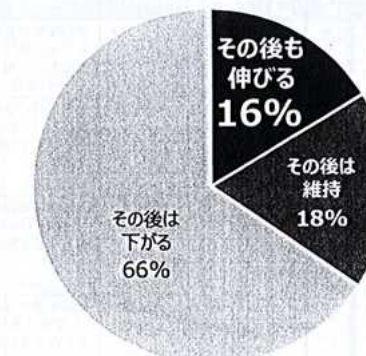
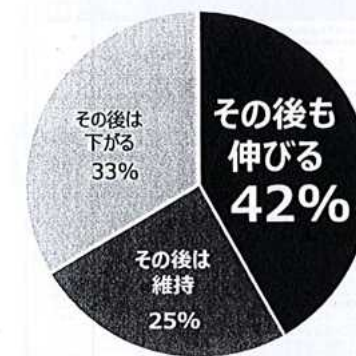


## 進研模試の平均点偏差値が伸びた時期ごとの、2年2月における成績変化

1年7月⇒1年11月で  
0.5ポイント伸びた学校のその後

1年11月⇒1年1月で  
0.5ポイント伸びた学校のその後

1年1月⇒2年7月で  
0.5ポイント伸びた学校のその後



※進研模試の2016年度1年7月、1年11月、1年1月、2017年度2年7月、2年11月、2年1月、2年2月の各回30名以上の連続受験校（559校）のデータを元に算出。1年7月から1年11月（左図）、1年11月から1年1月（中央図）、1年1月から2年7月（右図）にかけて国数英総合の平均点偏差値（以下、平均点偏差値）が0.5ポイント以上伸びた学校について、2年2月における平均点偏差値の変化を示した。

**1年7月から1年11月の成績変化が特に重要となる**

**早くから取り組んだ生徒が多い学校は、その後も伸びる可能性が高い。** ということです。

高校2年生の中盤以降になると、自然と進路についての意識が高まり主体的に学習に取り組む者が増えてきます。高校3年生になると、その状況はさらにレベルが上がっていきます。成績は相対的なものですので、みんなが頑張り始める時期から頑張りだしても、なかなか数字は上がりません。

まだまだ取り組みが確立されていない生徒が多い**今の時期だからこそ、頑張った成果が出やすい**のです。

## 進研模試デジタルサービスについて

「進研模試デジタルサービス」は、高校生一人ひとりが主体的に学ぶことをめざし、学力と学習習慣の定着を支援する、WEBを利用したサービスです。すでに各生徒には、ログイン用のカードを配布し利用できる状態になっております。具体的にできることとして、

- ・進研模試受験前の目標設定
  - ・成績結果や答案
  - ・受験直後の自己採点、復習
  - ・判定の確認
- などの機能があります。

模試は、『**目標をもって臨む**』が鉄則です。有効活用するためにも、『**目標設定⇒模試受験⇒復習⇒次回の目標設定**』を定着させてください。

